第２章　計画策定の背景

1　国･三重県の動向

（１）国の動向

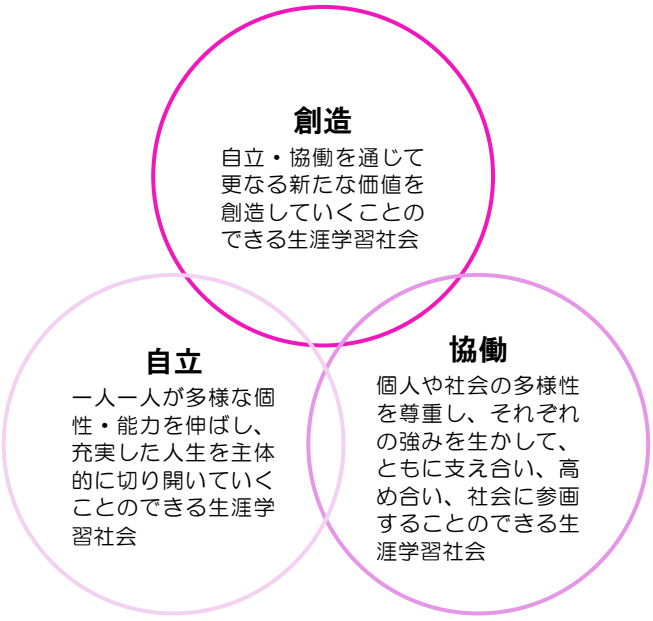
■「第６期中央教育審議会 生涯学習分科会における議論の整理」（平成 25 年１月まとめ）

今後の社会教育行政は、社会教育施設などで自ら講座などをすべて行おうとする従来の「自前主義」から脱し、首長部局、大学、民間団体、企業などの多様な主体と積極的・効果的な連携を図り、地域住民も一体になって協働して地域の課題に対応していくネットワーク型行政の推進を求めています。

■『第２期教育振興基本計画』
（平成25年度～平成29年度）

少子化・高齢化の進展（社会全体の活力低下）、グローバル化の進展（日本の国際的な存在感の低下）、地域社会・家族の変容（個々人の孤立化、規範意識の低下）、格差の再生産・固定化（一人ひとりの意欲減退、社会の不安定化）などの社会情勢を踏まえ、第２期教育振興基本計画では新たな社会モデルとして『「自立」「協働」「創造」の３つの理念の実現に向けた生涯学習社会を構築』を掲げました。また、教育行政の基本的方向性として、次の４つを打ち出しています。

＜新たな社会モデル＞
～知識を基盤とした
自立、協働、創造モデルとしての生涯学習社会の実現～



出典：第２期教育振興基本計画

「社会を生き抜く力の養成」
～多様で変化の激しい社会の中で
個人の自立と協働を図るための
主体的･能動的な力～
「未来への飛躍を実現する人材の養成」
～変化や新たな価値を主導・創造し、社会の各分野を牽引していく人材～
「学びのセーフティネットの構築」
～誰もがアクセスできる多様な学習機会を～
「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」
～社会が人を育み、人が社会をつくる好循環～

■『第３期教育振興基本計画』（平成 30 年度～令和４年度）

第３期教育振興基本計画では、人生 100 年時代を見据えた生涯学習を意識しつつ、すべての人が生涯を通じ学び続け、学んだことを生かして活躍できる環境の整備を重要として特に「生涯学び、活躍できる環境を整える」ことが柱立てされています。

（２）三重県の動向

■「第３次生涯学習振興基本計画～みえまなび絆プラン～」（平成 23 年度～平成 26 年度）

だれでも、いつでも、どこでも楽しく学ぶことができ、その成果を社会に活かすことができる「みえの生涯学習社会」の実現を目指し、「学びあうみえの絆づくり」を基本目標とした第３次生涯学習振興基本計画が進められました。

計画の推進にあたり、「学びあう環境づくり」「学びの絆による人づくり」「学んだことを活かしあう地域づくり」「学びあう場づくり」という４つの施策目標を示し、また、市町に期待する役割として次の３つを挙げています。

① いつでも、どこでも、気軽に学習活動に取り組むことができ、学んだ成果をまちづくりに活かせるような環境づくりの推進
② 公民館や図書館等の身近な拠点における一層の機能充実、相互に連携・協働した利便性・サービスの提供、職員の専門的な資質向上
③ 学習成果を地域社会活動に活かすための具体的なしくみづくりやプログラム提供、地域で核となるコーディネーターなどの人材養成

現在は**「みえ県民力ビジョン」**（平成 24 年度から概ね 10 年）の行動計画に示された「生涯学習の振興」により、県民の多様なニーズを踏まえた魅力的な学びの場の提供、様々な主体の交流、情報発信の充実、学習成果の活用の場や機会の創出などに取り組んでいます。

■「三重県教育施策大綱」※（平成28年度～平成31年度）

「教育に取り組む基本方針」において、「人口減少等がもたらすさまざまな地域課題と向き合う中で、三重の持つ『多様性』という強みを活かしながら、教育が『駆動力』となって、新しい時代へのブレイクスルーに挑みます」としています。そして、「学校はもとより、家庭、地域住民、企業など、教育に携わる全ての者が、『毎日が未来への分岐点』という共通認識のもと、明日の発展につながる教育活動」を進める基本方針として、次の６つを掲げています。

① 「生き抜いていく力」の育成
② 「教育安心県」の実現
③ 「生涯現役・全員参画型社会」に向けた学習基盤の充実
④ 教育への県民力の結集 ～「時をつなぐ協創」の推進～
⑤ 「三重ならでは」の教育の推進
⑥ 社会的課題をふまえた教育の充実

さらに、「三重県教育施策大綱」（令和２年度～令和５年度）では、人生 100 年時代の到来や成年年齢の引き下げ、超スマート社会（Society5.0）の実現をめざすといった社会情勢の変化を踏まえ、基本方針を定めています。

※ 三重県教育施策大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3第1項に基づき、三重の教育の基本的な方針や教育施策の主な内容について示すものです。

2　これまでの市の取組みの課題

「生涯学習推進計画」(平成 22 年 10 月策定) が掲げる５つの基本方針のもと、各事業は、毎年、進捗状況の振り返りと評価を行っています。この評価から、次のような今後の課題が見えています。

基本方針１　生涯にわたる学習の支援と生涯学習活動の推進

(1) 子育てにかかる学習の推進

子育て親子が安心できる居場所づくりに取り組んでいるものの、子育て支援センターを利用していない、支援を必要とする人に情報が伝わっていないなどの声もあり、積極的な情報提供を図ることが重要です。

また、中学生や高校生を対象にした体験学習を推進していますが、クラブ活動や受験勉強などがあり、参加者の増加が難しい状況にあります。

(2) 学校教育の充実

子どものニーズや保護者の願いが多様化しており、一人ひとりに対するきめ細やかな指導がますます重要になっています。学校教育と社会教育の連携（学校、家庭、地域）を一層深め、双方の持ち味を生かしながら一体となって教育に取り組む体制をこれまで以上に築いていく必要があります。

(3) 高齢者・障害者のための学習機会の充実

桑名市でも高齢化が進む中、高齢者の様々な社会参加の取組みに対し、高齢者の多様性と自主性を十分に尊重しつつ、高齢者の健康や交流施設の充実などの支援が求められています。

障害者のためのハード・ソフト両面の整備がいまだ不十分な状況にある中、あらゆる教室、講座、講演会などの市が関わるイベントについては、障害者に配慮した企画・運営を行い、障害を理由に参加できないことがないよう学習機会の提供を図る必要があります。

(4) 学習環境の充実

市が主催・提供する講座・教室に、人づくり・地域まちづくりの視点からの現代的課題・生活課題にかかる学習機会の提供が求められています。提供にあたり、各部局の諸事業も「生涯学習」という視点でとらえ、市内部で連携・協力して計画的に行う必要があります。

市民の自発的な学習活動支援のため、学習相談をはじめとする支援体制の確立や各種の生涯学習関連施設の機能の充実も必要です。

また、学習情報は、様々な情報があふれており、情報を受ける側に応じた提供方法の工夫が必要です。「桑名ふれあいトーク」では、制度の周知や定期的なテーマの見直しを行う必要があります。

(5) 生涯学習を支えるための仕組みづくり

市民ニーズや地域の課題が複雑・多様化する中、地域社会をより住みやすく魅力あふれ

るものとするうえで、まちづくりに意欲ある市民、自治会、市民活動団体、民間企業などと行政とがまちづくりパートナーとして連携・協働し、地域の課題などを解決していくことが重要です。そのため、これらパートナーと情報共有を図りながら、広報活動や支援の充実を図ることが必要です。

基本方針２　青少年が健やかに育つまちづくりの推進

(1) 青少年育成活動の充実

少子高齢化などの影響により、子どもの参加率の低下や育成者・指導者の減少が顕著に見られます。子どもを取り巻く環境の悪化を防ぎ、将来の桑名市のまちづくりに貢献できる人材を育成するために、地域住民の教育への関心を喚起し、積極的な参画を推進する取組みが必要です。

(2) 青少年の非行防止・保護体制の充実

青少年をめぐっては、少年による凶悪事件、出会い系サイトに関係した事件、児童虐待事件などによる子どもの被害、いじめ問題など、事件として表面化するまで状況が見えにくいものが増えています。教育委員会、学校、警察などの関係機関との情報交換や連携の取組みを一層強め、続けていく必要があります。

基本方針３　生涯スポーツ社会の実現に向けた自発的なスポーツ参加の推進

(1) スポーツ活動と基盤の充実

より多くの市民がスポーツを日常生活の一部として実践するよう、既存の運動・スポーツ施設の利便化に向け、継続した取組みが必要です。

(2) スポーツ組織の育成と充実

誰もが世代を超えて参加でき、楽しめる活動の一つとして、地域におけるスポーツ活動が求められています。市民のスポーツ活動を支援する指導者の養成、市民のスポーツ活動を支えるための円滑なシステムづくりが必要です。

基本方針４　個性豊かな地域文化づくりの推進

(1) 文化・芸術活動の推進

文化活動に関わる様々な団体が、地域の文化振興の担い手としての役割を果たせるよう、育成・支援することが必要です。また、特色ある地域文化・芸術活動の推進のため、行政と市民が一体となった取組みが求められています。

(2) 文化財の保護

「七里の渡」周辺での国の整備計画に合わせた保存管理や整備、また、後継者不足のため存続が危ぶまれる無形民俗文化財について、その担い手と市民、行政が一体となって伝統を守る必要があります。そのためにも、博物館の展示などにより文化財を広く市民に公開し、桑名の歴史と文化について親しんでもらう場をつくることが必要です。

絶滅が危惧される天然記念物については、関係者の理解や生息環境の整備が望まれます。

基本方針５　現代的課題に対応した学習内容の充実による地域づくりの推進

(1) 人権が尊重されるまちづくりの推進

市民が同和問題や性別、障害者、外国人、高齢者、子どもなどに関わる様々な人権問題、情報化社会の進展に伴う新たな問題に対し継続的に対応する必要があります。また、男女共同参画の推進のため、今なお根強く残る性別による固定的な役割分担意識の解消を目指し、情報提供や啓発を行い、市民に周知する必要があります。

(2) 安心・安全なまちづくりの推進

桑名市は、大規模な自然災害が懸念される地域にあり、日頃から市民一人ひとりの防災意識の高まりが大切です。

防犯では、市民の自己防衛や地域連帯意識の向上を図ることが有効です。

交通事故防止にも、市民一人ひとりの交通安全意識の高まりが必要です。

また、悪質商法や商品の安全性の欠如といった消費者問題が後を絶たない状況の中、消費者相談体制の継続と、消費者の知識向上を図る必要があります。

(3) 環境保全の推進

今日の環境問題は、日常生活における環境への負荷の蓄積から生じており、良好な環境を次世代に引き継ぐため、環境保全の大切さを環境学習で啓発する必要があります。

(4) 健康で思いやりのあるまちづくりの推進

生涯にわたる健康づくりでは、子育てに不安を感じ自信が持てない保護者に、正しい知識の啓発と育児不安を軽減する母子保健事業の充実が必要です。また、生活習慣病が増加傾向にある中、生活習慣を改善し病気を予防する積極的な健康づくりの推進が急務です。

ボランティア活動については、ボランティアの需要と供給のマッチングが円滑となる環境整備が求められています。

(5) 国際理解・交流の推進

急速にグローバル化が進む中、国際感覚を備えた人材育成のため、外国語教育や外国人と共生しようとする態度を育成する教育の充実、また、長期海外留学の支援体制の充実が必要です。

外国人が生活しやすい環境整備のため、各種情報提供や相談・支援体制の充実、市民レベルの国際交流、協力活動の推進が求められています。

(6) 職業能力向上のための学習の充実

生涯学習を通して自らの職業能力を高めようとする市民のための学習機会の充実を、関係機関などとの連携で図る必要があります。また、安価な海外製品の流入や後継者不足などにより衰退傾向にある地場産業について、市民の関心と理解を深め、従事者の確保に努めていく必要があります。

3　市民の生涯学習に関する意識調査から

※（１）～（５）のグラフや表の出典は、平成 27 年 9 月～10 月実施の「生涯学習に関する市民アンケート調査」報告書、（６）の出典は、平成 27 年 12 月実施の「生涯学習に関する団体ヒアリング調査」報告書

（１）生涯学習活動について

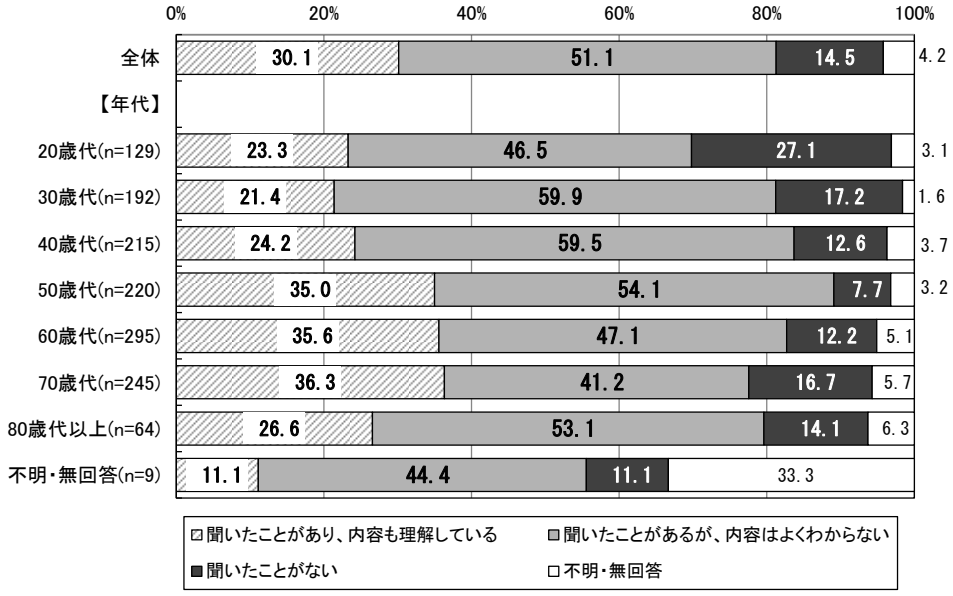
「生涯学習」という言葉の認知度（**グラフ1**）については、「聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が全体で約5割、「聞いたことがあり、内容も理解している」は約3割です。年代別では 50 歳代以上で認知されている割合が高く、20 歳代～40 歳代で低い傾向が見られます。

この1年間に行った学習内容（**グラフ2**）については、「特にない」が3割を超えています。「不明・無回答」と合わせると4割近くになりますが、裏返せば、6割を超える市民が何らかの形で生涯学習活動に参加しているといえます。

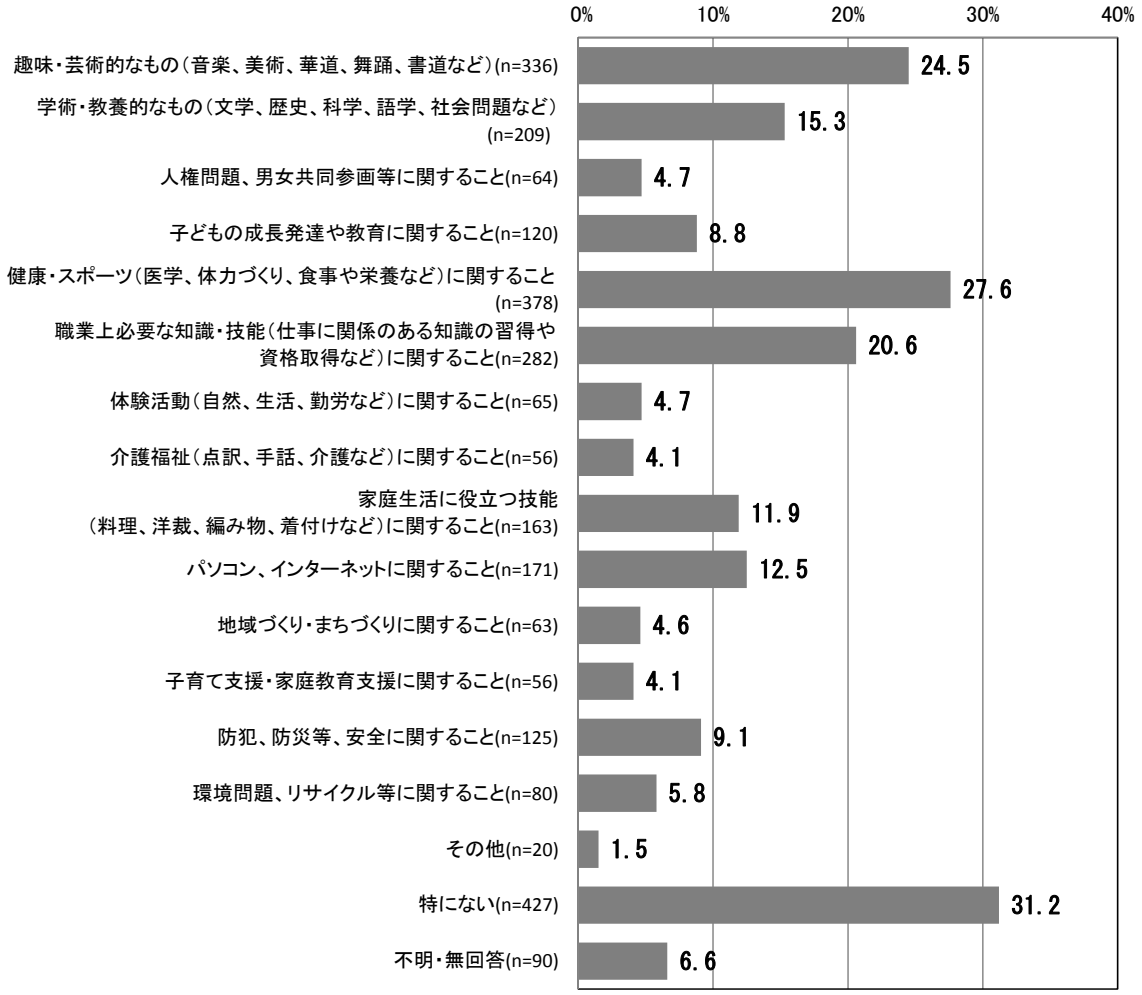
また、生涯学習を行っていない理由（**表1**）については、特に 30 歳代～50 歳代で「仕事が忙しく時間がない」という声が多く、「きっかけがつかめない」という人も3割を超えています。

「生涯学習」が意味することの周知と、活動の障壁になっていることを踏まえた施策の検討を進めていくことが求められています。

【グラフ1】「生涯学習」という言葉の認知度　（N = 1,369／単数回答）



【グラフ2】「この１年間に行った学習内容とその割合　（N = 1,369／複数回答）



【表 1】生涯学習を行っていない理由　（N = 708／複数回答）

（単位：%）

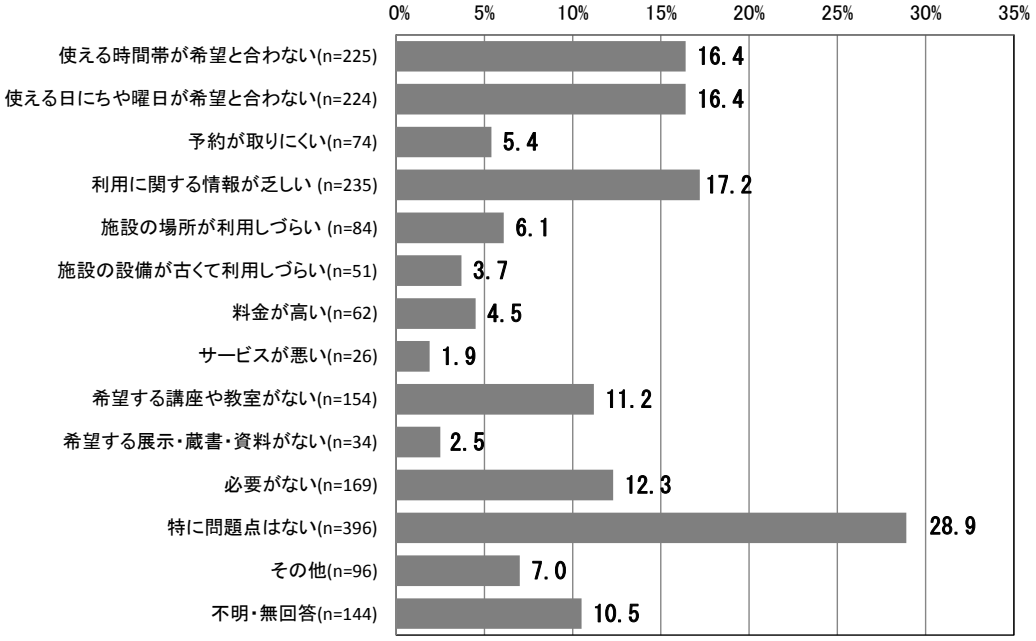
	仕事が忙しく時間がない	家事が忙しく時間がない	子どもや親の世話をしてくれる人がいない	参加するのに費用がかかる	参加したい講座や教室などが身近にない	一緒に参加・活動する仲間がいない	身近なところに施設や場所がない	必要な情報が入手できない	講座の時期・曜日・時間が合わない	きっかけがつかめない	家族や職場など周囲の理解が得られない	その他	特に必要だと感じない	不明・無回答
全体（N＝708）	**41.8**	19.2	7.1	12.4	15.0	16.2	7.8	13.6	17.2	**31.5**	1.4	6.8	22.2	3.7
【年代】														
20歳代（N＝54）	**42.6**	9.3	7.4	11.1	18.5	18.5	5.6	9.3	11.1	**38.9**	－	5.6	20.4	1.9
30歳代（N＝109）	**54.1**	30.3	20.2	15.6	22.0	13.8	7.3	23.9	19.3	**33.0**	－	3.7	11.9	2.8
40歳代（N＝118）	**59.3**	31.4	9.3	16.9	12.7	11.9	6.8	12.7	25.4	**36.4**	2.5	3.4	16.1	3.4
50歳代（N＝125）	**55.2**	18.4	4.8	16.0	16.0	17.6	13.6	16.0	17.6	**37.6**	2.4	1.6	16.8	1.6
60歳代（N＝141）	**34.8**	14.9	3.5	7.8	12.8	16.3	5.7	13.5	21.3	**27.0**	1.4	10.6	**27.0**	1.4
70歳代（N＝120）	16.7	12.5	0.8	9.2	15.0	19.2	9.2	6.7	9.2	**30.0**	1.7	8.3	**32.5**	7.5
80歳代以上（N＝38）	15.8	2.6	－	5.3	2.6	21.1	－	5.3	2.6	2.6	－	26.3	**42.1**	10.5
不明（N＝3）	－	33.3	33.3	33.3	－	－	－	33.3	33.3	33.3	－	－	－	33.3

（２）桑名市の生涯学習施設に対する意識

施設利用の問題点（**グラフ3**）として、「利用に関する情報が乏しい」「使える時間帯が希望と合わない」「使える日にちや曜日が希望と合わない」という声が上がっています。

また、市が公共施設の最適な配置や総量削減の方針を打ち出している中で、生涯学習の場の確保に必要なこと（**表2**）として、20 歳代～50 歳代で「市が保有する公共施設の未利用時間帯などの利用を促す」、50 歳代以上で「地域に密着した場を利用する」という声が多く上がっています。生涯学習の場を検討する際に、今ある施設の利用時間を増やすなどの有効活用と、寺院や神社、地区集会所など徒歩圏内にある地域に根付いた場の利用についての検討が求められています。

【グラフ3】市内の公共施設を利用するうえでの問題点　（N = 1,369／複数回答）



【表2】公共施設の最適な配置や総量の削減を進める方針が示された中で、生涯学習を推進・充実させていくための「場」について必要と思われること　（N = 1,369／複数回答）

（単位：%）

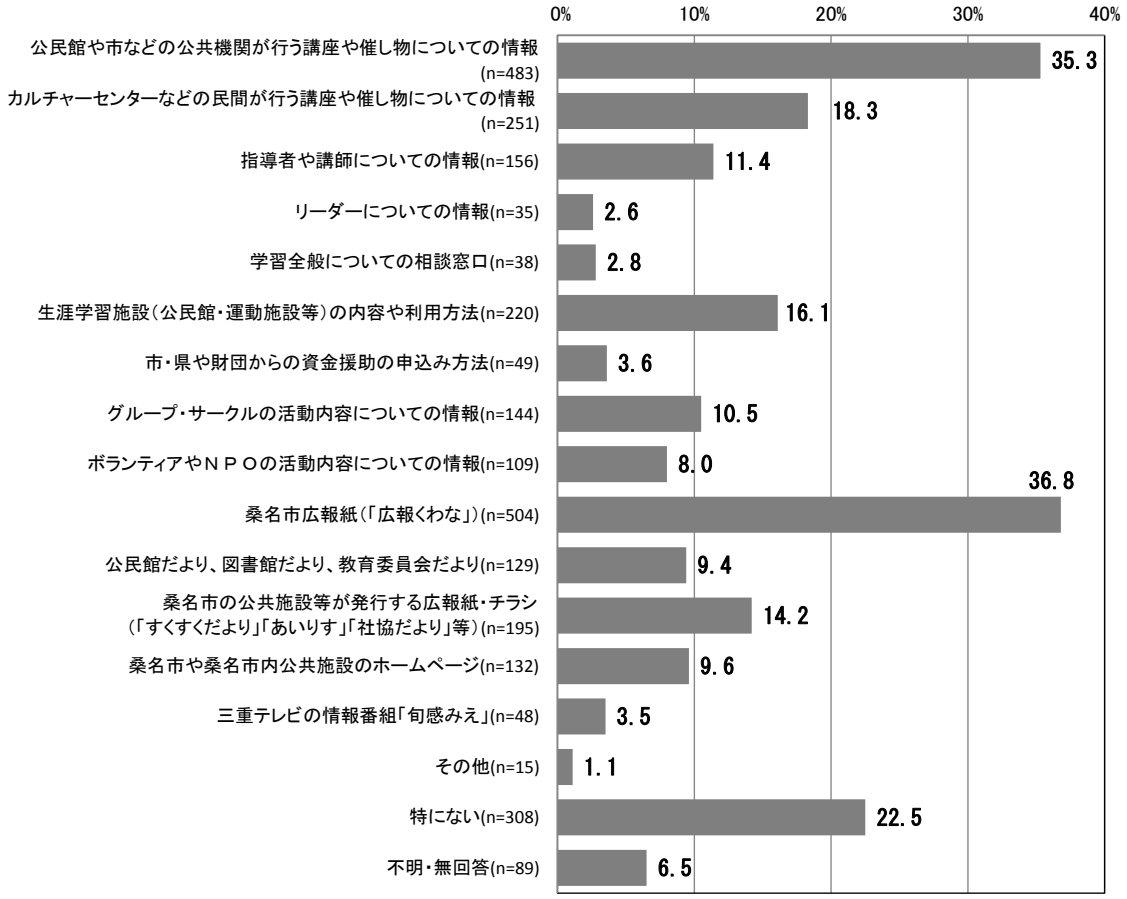
	市が保有する公共施設の未利用時間帯などの利用を促す	小・中学校の利用機会を増やす	市が民間施設を借り上げて利用する	民間の生涯学習目的施設の利用への助成	地域に密着した場を利用する	空き家を有効利用する	特にない・わからない	その他	不明・無回答
全体（N＝1369）	**33.6**	19.9	7.5	15.0	**29.8**	14.4	27.8	2.0	7.5
【年代】									
20歳代（N＝129）	**34.1**	24.8	8.5	13.2	21.7	14.7	**28.7**	3.9	3.1
30歳代（N＝192）	**40.1**	27.1	6.3	22.4	**28.6**	16.7	26.0	1.6	3.6
40歳代（N＝215）	**43.7**	**29.3**	6.0	20.5	25.6	18.1	18.1	1.9	6.0
50歳代（N＝220）	**43.2**	27.3	11.8	13.2	**33.6**	13.6	19.1	1.4	5.9
60歳代（N＝295）	**30.8**	13.6	8.5	15.6	**34.2**	15.9	29.8	1.0	7.1
70歳代（N＝245）	18.4	8.6	4.9	9.0	**32.7**	9.8	**38.0**	3.7	11.8
80歳代以上（N＝64）	17.2	6.3	4.7	6.3	20.3	7.8	**46.9**	－	**21.9**
不明（N＝9）	33.3	11.1	－	11.1	22.2	11.1	22.2	－	22.2

（３） 桑名市の生涯学習施策に対する意識

生涯学習を行う上で充実を望む情報（**グラフ4**）として、「桑名市広報紙（『広報くわな』）」「公民館や市などの公共機関が行う講座や催し物についての情報」という声が上がっています。また、市民の生涯学習参加のために行政が力を入れるべきこと（**グラフ5**）については、「公民館、図書館、文化施設、スポーツ施設などの整備、機能の充実」「初心者向けの講座や行事などの充実」という声が上がっています。選択肢を一部変更しているため単純に比較できないものの、平成 21 年調査の同じ質問結果と比べると、「指導者や学習ボランティアなど支援者を増やすための支援」「活動の発表の場や、地域等で生かせる場の提供」といった生涯学習の活動成果を生かすことを視野に入れた項目や、「資格取得を目的とした講座の充実」「啓発のためのイベントの実施」などで、前回より低下が見られます。

桑名市の生涯学習事業や広報の認知度と参加意思（**グラフ6①・②**）を見ると、認知度は低いものの参加意思は高い事業もあり、事業を知らない人の中には、一定の参加意思（ニーズ）が見られます。事業や広報紙それぞれの認知や潜在的なニーズに違いがあることを踏まえた事業の進め方、広報のあり方の検討が求められています。

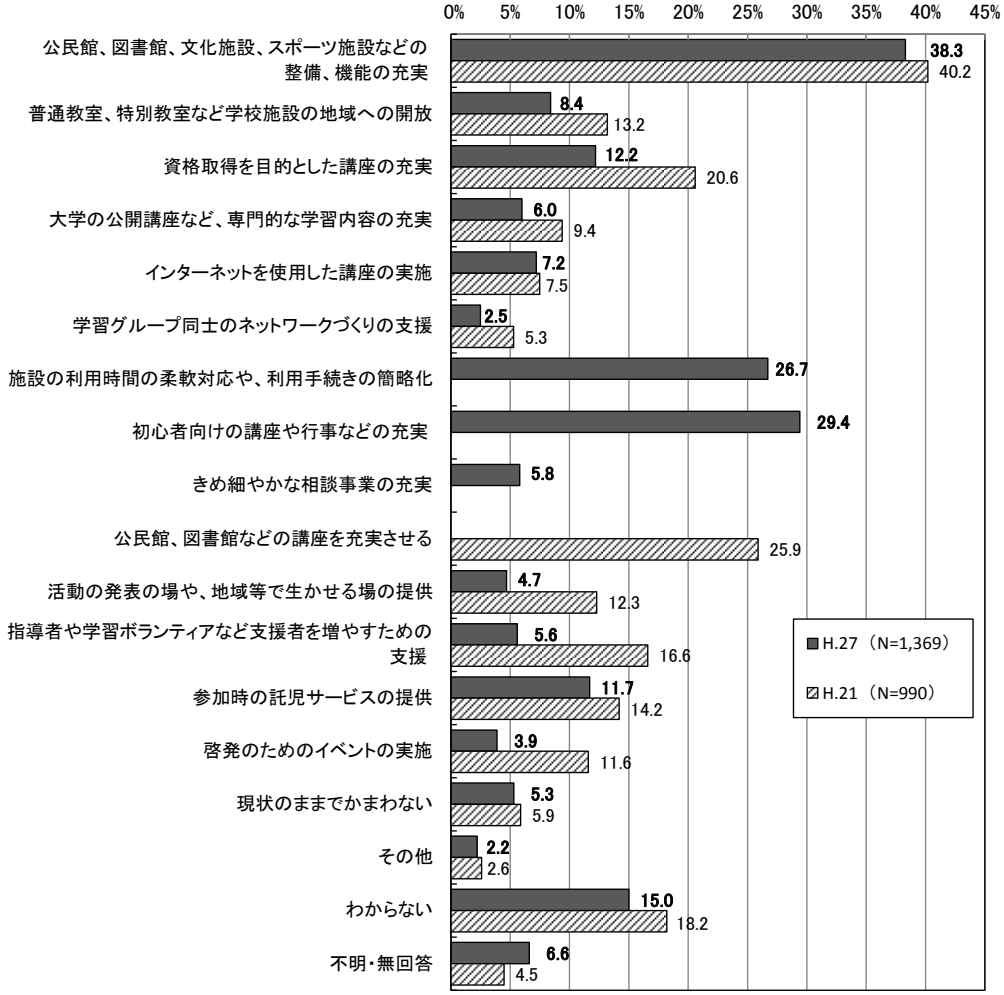
【グラフ4】生涯学習を行う上で、充実を希望する情報 （N = 1,369／複数回答）



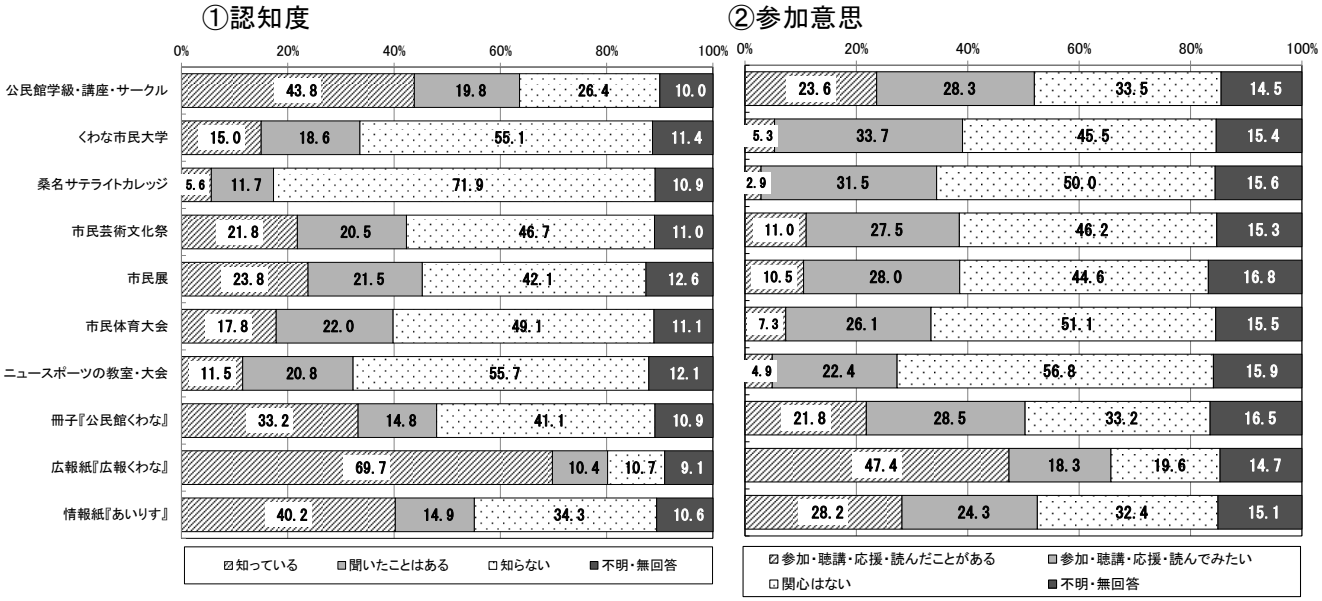
【グラフ5】市民が生涯学習活動をより気軽に積極的に参加するために、行政が力を入れるべきこと

（複数回答）

＊平成 21 年と 27 年で選択肢に一部変更あり。平成 21 年調査では「生涯学習推進に向けて充実すべき内容」という設問の選択肢に対して、「施設の利用時間の拡大」（21.1%）、「施設の利用手続きなどの簡略化」（23.4%）、「初心者向けの教室・講座・行事の充実」（43.1%）、「きめ細やかな相談事業の充実」（6.4%）でした。



【グラフ6】桑名市の生涯学習事業や広報冊子の認知度と参加意思　（N = 1,369／単数回答）



（４） 生涯学習の成果

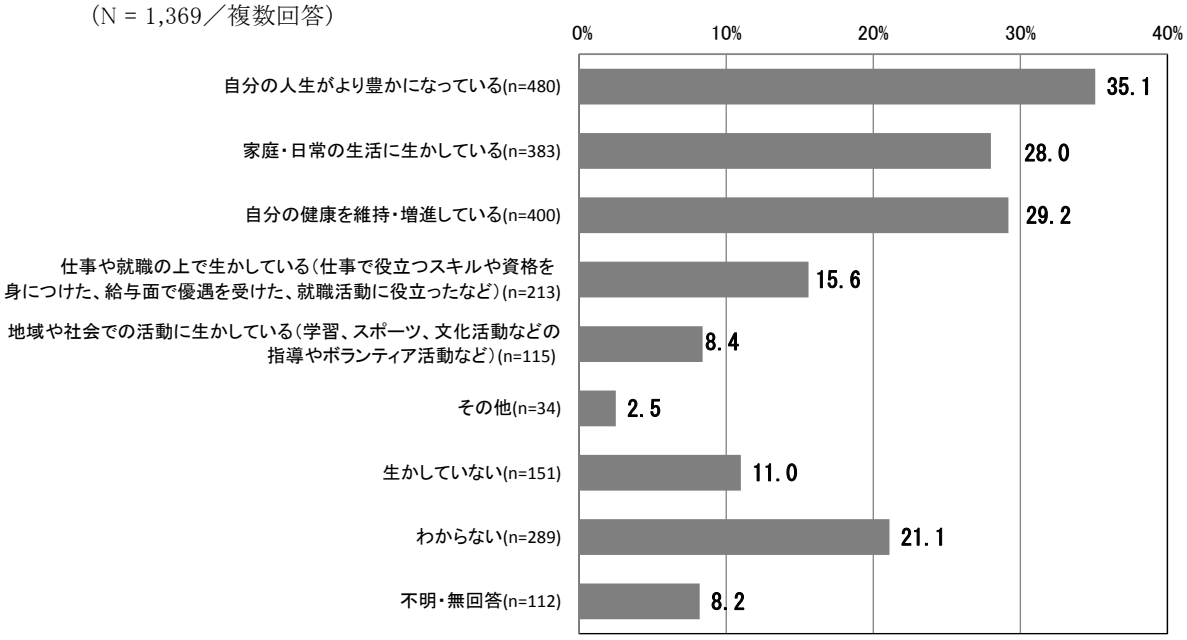
生涯学習の成果の活用状況（**グラフ7**）について見ると、生涯学習の成果を自分のために生かしている市民は一定の割合でいますが、地域や社会に生かす活動をしている市民の割合は高くありません。一方、生涯学習の成果の活用意向（**グラフ8**）では、生涯学習の成果を仕事や地域活動に「生かしたい」という声が半数以上を占めています。

関心のある地域の課題・テーマ（**グラフ9**）では、「健康に関すること」「防災・防犯に関すること」の声が多くなっています。これを年代別（**表3**）に見ると、20 歳代、30 歳代では「子育て・家庭教育支援に関すること」への関心が高く、世代によって関心のある課題は異なっています。

こうした潜在意識・参加意思を地域づくりへの自発的な参加に生かせる仕組み、さらに、それが市民の新たな楽しみになっていくようなモデルづくりが求められています。

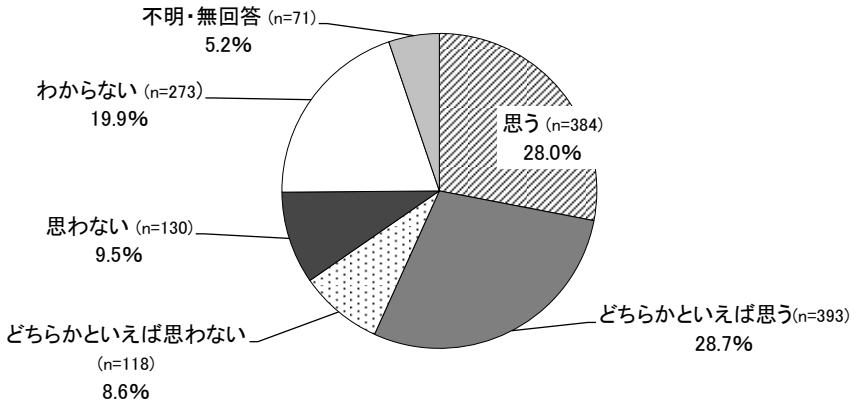
【グラフ7】生涯学習を通して身につけた知識・技能や経験を、どのように生かしているか

（N = 1,369／複数回答）

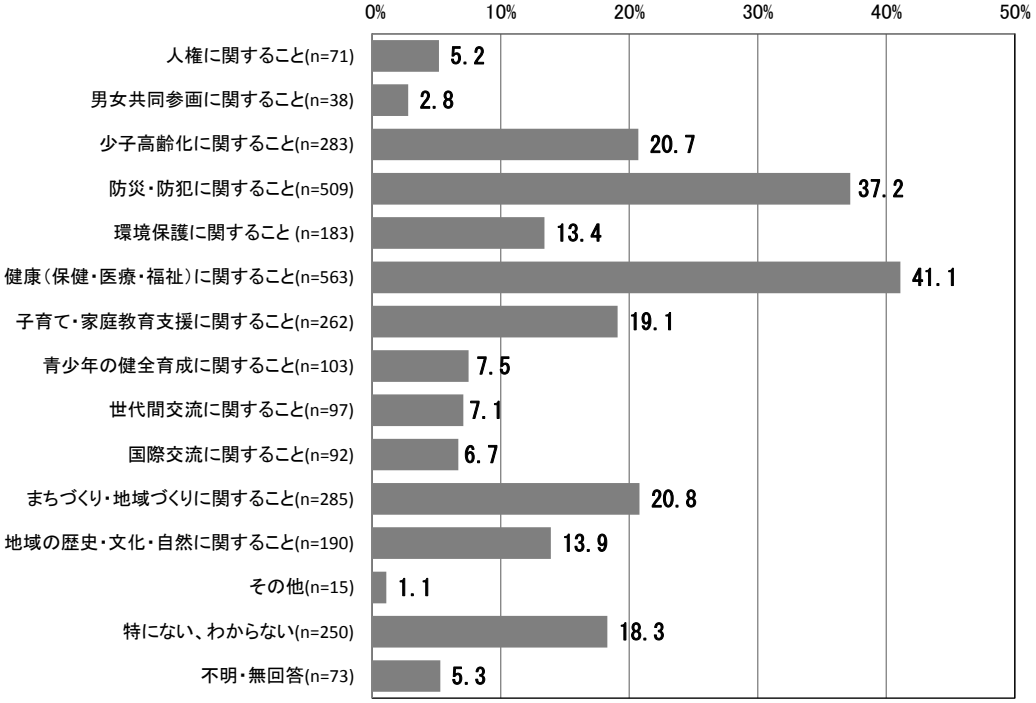


【グラフ8】生涯学習を通して身につけた知識・技能や経験を、仕事や地域活動に生かしたいか

（N = 1,369／単数回答）



【グラフ9】関心のある地域の課題・テーマ　（N = 1,369／複数回答）



【表3】関心のある地域の課題・テーマ　（N = 1,369／複数回答）

（単位：%）

	人権に関すること	男女共同参画に関すること	少子高齢化に関すること	防災・防犯に関すること	環境保護に関すること	健康（保健・医療・福祉）に関すること	子育て・家庭教育支援に関すること	青少年の健全育成に関すること	世代間交流に関すること	国際交流に関すること	まちづくり・地域づくりに関すること	地域の歴史・文化・自然に関すること	その他	特にない、わからない	不明・無回答
全体（N＝1369）	5.2	2.8	20.7	**37.2**	13.4	**41.1**	19.1	7.5	7.1	6.7	20.8	13.9	1.1	18.3	5.3
【年代】															
20歳代（N＝129）	10.9	7.0	14.0	**28.7**	8.5	**28.7**	**30.2**	6.2	7.0	10.9	24.0	16.3	2.3	17.8	1.6
30歳代（N＝192）	6.3	3.1	19.3	**36.5**	10.4	28.6	**49.5**	10.4	5.2	10.4	23.4	13.5	1.6	18.2	2.1
40歳代（N＝215）	3.7	4.7	20.9	**40.5**	14.0	**42.8**	28.4	9.3	4.7	9.3	20.5	11.2	1.4	15.3	2.8
50歳代（N＝220）	3.2	0.9	24.1	**40.9**	13.6	**46.4**	15.0	8.2	10.0	10.5	22.3	17.7	1.4	13.2	3.6
60歳代（N＝295）	4.7	3.1	23.7	**40.7**	20.3	**49.8**	7.1	7.1	7.8	4.4	22.7	17.3	－	17.6	6.1
70歳代（N＝245）	4.9	0.8	20.0	**35.9**	11.4	**42.9**	4.1	4.1	8.2	0.8	17.6	9.8	1.2	23.3	8.2
80歳代以上（N＝64）	6.3	－	17.2	23.4	6.3	**35.9**	1.6	9.4	4.7	－	9.4	7.8	－	**29.7**	18.8
不明（N＝9）	－	－	－	22.2	－	22.2	22.2	－	－	－	－	－	－	22.2	33.3

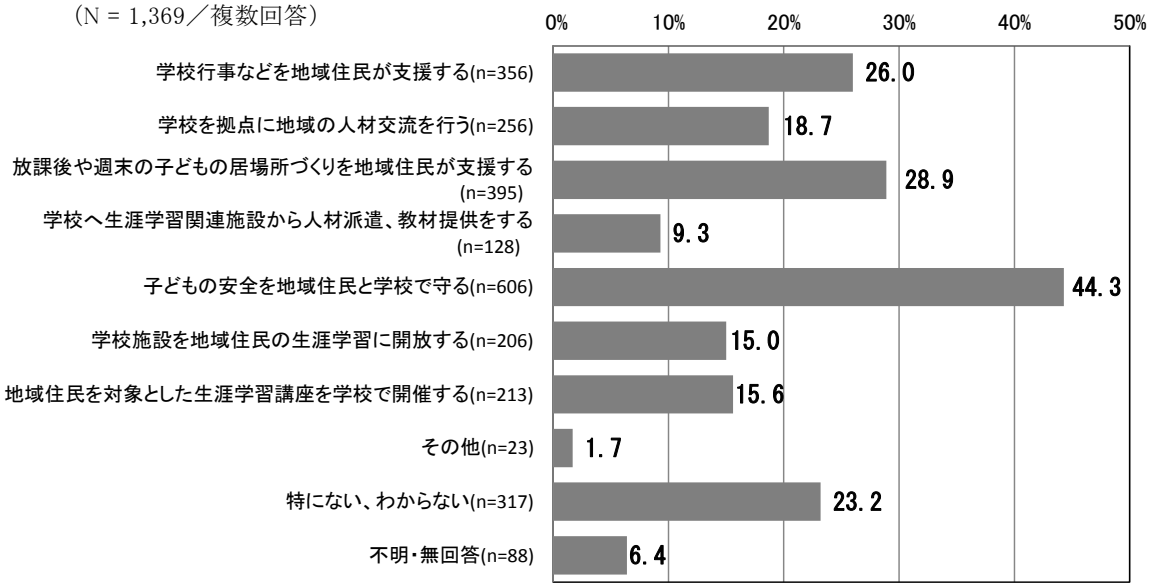
（５） 地域の連携、青少年健全育成に対する意識

地域の教育力向上のために力を入れること（**グラフ 10**）として、「子どもの安全を地域住民と学校で守る」「放課後や週末の子どもの居場所づくりを地域住民が支援する」などの声が上がっています。学校と家庭、地域住民の連携推進を必要だと考える市民が、一定の高い割合でいることがうかがえます。また、青少年に対する生涯学習施策として力を入れること（**グラフ 11**）では、「地域におけるイベントへの参加や清掃などのボランティア活動の促進」「企業や自治体などにおける職場体験の充実」などの声が上がっています。

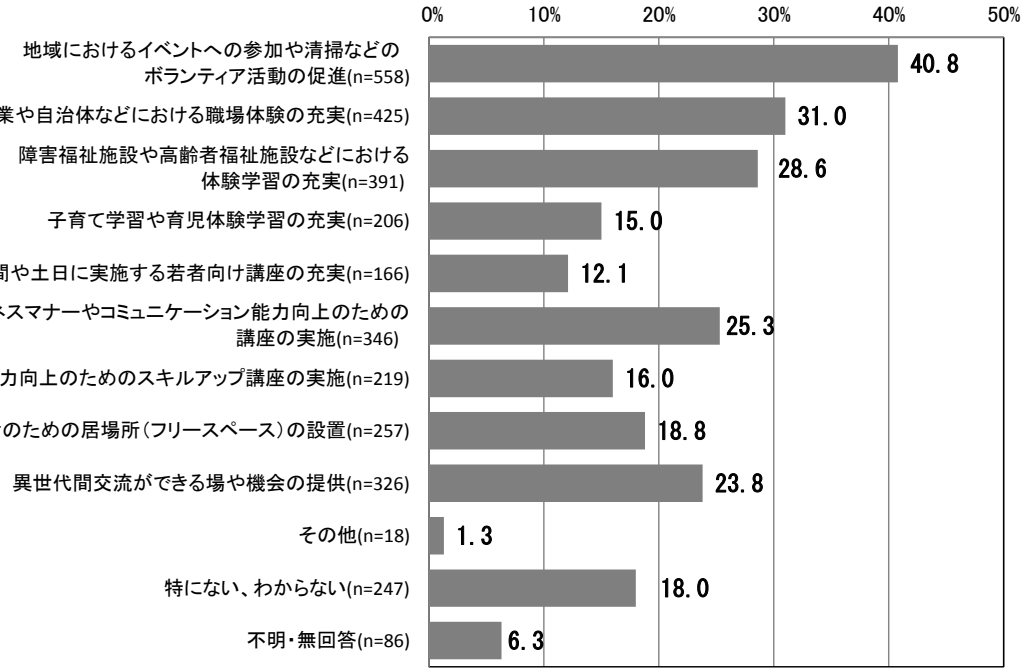
これまで実施してきた事業をよりニーズに合う形で提供し、その認知を広げ、地域で子どもや青少年を見守る意識や環境づくりを促進していくことが求められています。また、学校以外の学びの場（経験、交流の機会など）の提供も求められています。

【グラフ 10】地域の教育力向上を目指して、学校・家庭・地域住民の連携推進のために力を入れること

（N = 1,369／複数回答）



【グラフ 11】地域の青少年に対する生涯学習施策として力を入れること （N = 1,369／複数回答）



（６）生涯学習・支援活動を行っている団体の意識

生涯学習に関する公民館講座、サークル、支援活動やボランティア活動を行う団体の代表に実施した事前アンケートと対面での聞き取り調査（17 団体）から、次のような現状がわかりました。

① 団体の活動の目的は会員同士の交流が最も多く、次いで生きがい・楽しみとなっているように、活動のやりがいや効果の聞き取りでも、地域に知り合いができる心強さや人とのつながり、できることが増える喜びといった声があがっています。講座やサークルに集う効果は、地域を知る機会、地域の人と出会う場となることも大きいことがわかります。（**アンケート１、聞き取り1**）

② 活動の経験や成果の生かし方について、主として文化・芸術、スポーツなど趣味の生涯学習では、地域や学校での普及活動や指導、社会貢献などが挙げられました。また、趣味の活動であっても活動そのものが、地域や市民の課題・不便を少しでもよくしたいという方向で行われており、ボランティア活動や支援活動では、行政や他団体との連携、活動範囲の拡大などを意識しながら活動をしていることがわかりました。（**アンケート2、聞き取り2**）

③ 活動を広げるための工夫や成果を生かす工夫については、リーダーが自ら動いて活動場所、発表機会を広げることや、ネットワークを広げ知ってもらうこと、参加しやすいイベントを開催することが挙げられています。限られたメンバーと時間の中でも、成果を地域に還元できるよう、地域に広げられるよう意識して活動していることがわかります。（**聞き取り3**）

④ 団体活動の課題として、趣味の生涯学習では、会員が増えない、会員の高齢化、リーダーや指導者の不在といった課題が挙げられています。活動場所や成果を生かす機会といった課題以上に、人に関する課題が切実であることがわかります。（**アンケート3**）

【アンケート1】団体の活動目的（N =17／複数回答）　（件）

会員同士の交流	13
生きがい・楽しみ	10
知識や技能の向上	7
健康維持	6
豊かな人生を送る	4
子どもの健全育成	4
社会貢献	3
地域をよくする	2

【聞き取り１】生涯学習・支援活動のやりがい、効果（抜粋）

・地域に知り合いができる心強さ、地域で暮らす安心感が生まれる
・交流ができる、人とのつながりが広がる
・できることが増える喜びがある

【アンケート２】活動の経験や成果の生かしかた(N =17／複数回答)(件)

地域や学校での普及活動や指導	8
社会貢献	3
家族や友人に伝える	2
仕事の場で生かす	1

【聞き取り2】活動の経験や成果の生かしかたに関して（抜粋）

＜趣味の活動＞

・施設訪問やイベント参加する
・地域の子どもたちへの指導をする
・実生活に生かす

＜ボランティア・支援活動、その他活動＞　※ふだんの活動内容

・行政や他団体と連携する
・できることを積極的に実行する（活動範囲の拡大）
・子どもを支援する

【聞き取り3】活動を広げるための工夫、成果を生かす工夫（抜粋）

＜趣味の活動＞

・リーダー自ら動く（活動場所、発表機会を広げる）
・発表できる場へ積極的に参加する
・敷居を低くしてＰＲする

＜ボランティア・支援活動＞

・ネットワークを広げて知ってもらう
・参加しやすいイベントを開催する
・対象者の目にふれる場所にチラシを置く
・情報共有できるツールを利用する（スマートフォンのアプリケーション、メーリングリストなど）

【アンケート3】団体活動の課題(N =17／複数回答)　(件)

会員が増えない（減少）	9
会員の高齢化	7
リーダーや指導者の不在	3
会員間の意識の差	2
活動場所の確保	2
成果を生かす機会がない	1

4　今後の取組みへの課題

これまでの取組みの状況とアンケート調査などの結果から見る市民の生涯学習の現状により、今後の取組みへの課題を大きく４つに整理しました。

課題①　いつでもどこでも学べる学習環境

桑名市では、公民館講座やサークル活動の支援を中心に、市民の生涯学習活動を推進してきました。市民が、学ぶ楽しさや生きがいに出会う機会、学習活動への参加を通して地域の人と出会う場として、また、そうした意欲や学習成果が地域の課題解決やまちづくりに還元されていくよう、いつでもどこでも学習できる環境をつくることが必要です。

加えて、新たに生涯学習施設として利用できる場の開拓や利用方法の検討を積極的に進め、生涯学習の場の確保を図ることも必要です。

課題②　市民のライフステージに応じた学習機会

市民の誰もが、年齢にかかわらず、自分に必要なこと、関心のあることを学べるよう、ライフステージ※ごとに生じるニーズに応じた生涯学習の機会を提供することが必要です。

特に、仕事や子育てなどの事情でなかなか学習活動ができない現役世代に対し、多忙な中でも学べるようニーズに合ったテーマや参加しやすい時間帯・曜日などに見直していく必要があります。また、生涯学習活動に積極的に参加する高齢者には、その力を地域で発揮すると同時に、生きがいとなるような機会や場の工夫をすることが必要です。

※　ライフステージは、人間の一生における幼年期・児童期・青年期・壮年期・老年期などのそれぞれの段階のことです。

課題③　学びの成果を地域に生かす仕組み

公民館講座やサークルの発表会のような機会提供にとどまらず、その成果を市民が共有し地域に生かせる仕組みをつくること、そのために、地域間、団体間、世代間の学習交流を促し、地域における多様な活動を広く知ってもらい、市民自らの知識や経験を地域に役立てることができる機会をつくることが必要です。

また、組織と組織、組織と市民、市民と市民をつなぐ市のコーディネーター機能を高めることも必要です。

課題④　様々なニーズにこたえる生涯学習情報の提供

市民が生涯学習を始めたいとき、同じ課題や関心事を持つ人のサークルを探したいとき、文化やスポーツに触れたい・知りたいと思ったとき、ボランティア活動をしたいときなどに、手軽に都合よく情報を得られるよう、情報提供の方法を検討・実践することが必要です。同時に、そうした意識を呼び起こし、市民参画の向上に結び付く的確な情報提供の工夫をする必要があります。